



 **Roland**  
— WE DESIGN THE FUTURE —

## 第34期中間事業報告書

2005年4月1日から2005年9月30日まで



ローランド株式会社

証券コード 7944

## ローランド企業スローガン

創造の喜びを世界にひろめよう  
BIGGESTよりBESTになろう  
共感を呼ぶ企業にしよう



## contents

株主のみなさまへ	2
営業の概況（連結）	3
中間連結財務諸表（要旨）	5
中間単独財務諸表（要旨）	7
マルチブランド	8
新製品のご紹介	9
トピックス	11
会社の概況	13
株式の状況	14

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。  
当社第34期中間期（2005年4月1日から2005年9月30日まで）の事業概要および中間決算につき、ご報告申し上げます。

当中間期の業績につきましては、電子楽器事業では、シンセサイザー、電子ドラムならびにコンピュータ・ミュージック関連機器が海外で好調に推移し、コンピュータ周辺機器事業においても、プリンターを中心に海外で大きく売上を伸ばしました。結果、連結、単独決算ともに前年同期と比較して増収となりましたが、利益面では為替差益の減少および法人税等調整額の増加等により、経常利益はほぼ横ばい、中間純利益は減益となりました。中間配当金につきましては、期初の予定通り12円50銭（年間配当金は1株につき25円の予想）とさせていただきます。

「創造の喜びを世界にひろめよう」－このスローガンのもとに、ローランド・グループは着実に事業領域を広げ、ビデオ編集機を中心とした映像分野にも注力しています。イメージを音にする、映像にする、カタチにする、それを組み合わせる、これが我々のチャレンジです。質的な豊かさが求められるようになった今日の社会において、「創造」のフィールドはより多様化、個性化し、我々が果たすべき役割はさらに大きくひろがっていきます。この大きな変化に柔軟に対応し、多くの世界初、日本初の製品を生み出してきた技術力と、グローバルな事業体制をベースに、ローランドは新たな成長を目指してまいります。また、「創造」という文化を担う一企業として、常にその社会的責任を強く認識し、全てのステークホルダーにとって「共感を呼ぶ企業」となるよう、「BEST」を尽くしてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2005年12月



取締役社長 田中英一

## 営業の概況（連結）

### 業績全体の概況

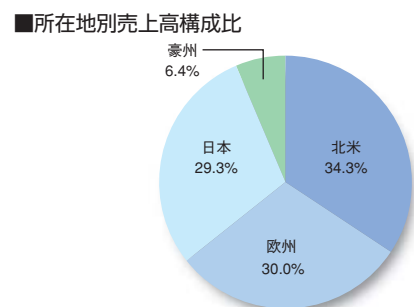
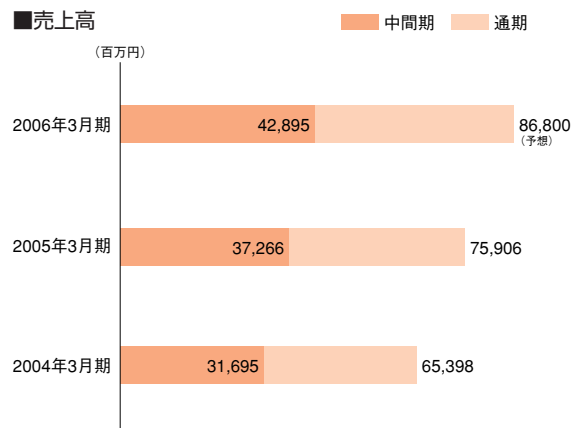
当中間期の経済環境は、国内においては企業収益の改善に伴う設備投資や雇用情勢にも回復の兆しが見られましたが、個人消費は回復実感の乏しい状況で推移しました。また欧米景気においても概ね好調に推移しましたが、原油価格高騰の長期化等により、依然として景気持続への不安が残りました。

このような状況下において、電子楽器事業では、海外でシンセサイザー、コンピュータ・ミュージック関連機器等の新製品を中心に好調に推移しました。

一方、コンピュータ周辺機器事業においても、海外でのプリンターを中心とした販売が好調に推移しました。

上記の結果、全体では売上高は42,895百万円（前年同期比15.1%増）、営業利益は3,925百万円（前年同期比5.4%増）、となりましたが、為替差益の減少及び法人税等調整額の増加等により、経常利益は4,179百万円（前年同期比1.3%減）、中間純利益は1,264百万円（前年同期比15.5%減）となりました。

当期通期の見通しにつきましては、国内では引き続き設備投資等が底堅く推移すると予想されますが、世界的な原油価格高騰長期化等、経済の先行きには不透明感が続きます。為替の不安定要因もありますが、中間期の好調を維持し、増収増益を目指します。



		(2004年3月期)		(2005年3月期)		(2006年3月期)	
		中間期	通期	中間期	通期	中間期	通期 (予想)
連結	売上高 (百万円)	31,695	65,398	37,266	75,906	42,895	86,800
	経常利益 (百万円)	1,148	3,654	4,235	7,337	4,179	8,500
	当期純利益 (百万円)	245	1,120	1,496	2,398	1,264	2,900
	1株当たり当期純利益 (円)	9.68	42.53	59.61	92.43	50.36	115.49
単独	売上高 (百万円)	15,018	29,526	16,390	32,504	16,697	33,200
	経常利益 (百万円)	796	1,013	1,832	2,631	1,822	2,500
	当期純利益 (百万円)	563	708	1,282	1,797	1,164	1,700
	1株当たり当期純利益 (円)	22.24	27.26	51.08	70.03	46.38	67.70

### セグメント別営業の概況

#### 電子楽器事業

「電子楽器」は、海外を中心にシンセサイザー、電子ドラム、楽器用アンプが前期に引き続き好調に推移し、前年同期を上回りました。

「家庭用電子楽器」は、国内外ともに電子ピアノの売上がマーケットの低価格化傾向の強まり等の影響を受け減少し、前年同期を下回りました。

「音響機器」は、デジタル・レコーダーの普及価格帯機種が売上を伸ばしましたが、高価格帯機種の売上減少をカバーできず、全体では前年同期を下回りました。

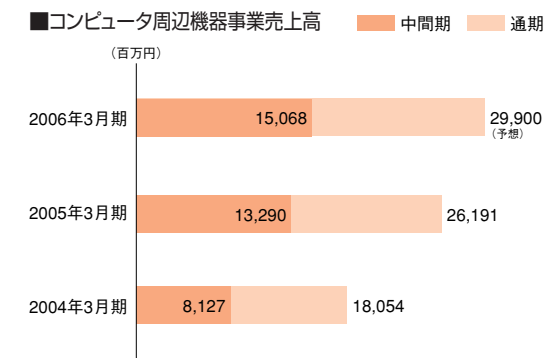
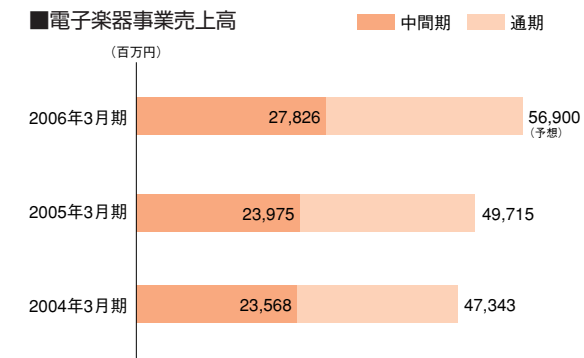
「コンピュータ・ミュージック関連機器他」は、音楽制作・デジタル録音に対応したオーディオ・デバイスが売上を伸ばし、全体では前年同期を上回りました。

#### コンピュータ周辺機器事業

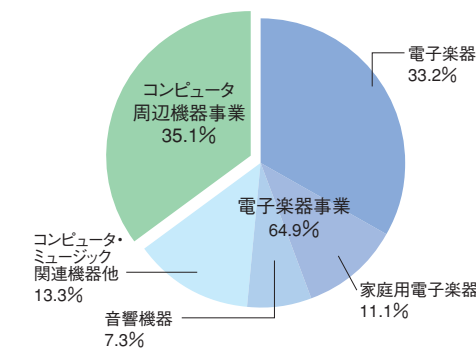
需要拡大が期待できる「カラー&3D」の二分野を中心に積極的な営業展開を図りました。

「カラー」は、屋外広告用途の需要増に応え、耐候性・発色性に優れた環境配慮型の低溶剤系インクジェットプリンターを中心に堅調に推移しました。また、これらに使用するインクも第3世代インクとも言えるもので、耐久性と速乾性をより強化し、対応メディアの拡大、低価格化を図り、サイン市場に求められる生産性と画質を大幅に向上させることができました。

「3D」は、製造業を中心としたものづくり工程のデジタル化が進む中、セミナーや内覧会を通じた啓蒙活動により市場環境を整備することに注力し、設計から生産に至るまでの各工程における合理化、効率化を図り付加価値の高いものづくりのソリューション提案による活動を行ってきました。



#### ■事業のセグメント別売上高構成比



## 中間連結財務諸表(要旨)

### 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期 2005年9月30日現在	前中間期 2004年9月30日現在	前 期 2005年3月31日現在	科目	当中間期 2005年9月30日現在	前中間期 2004年9月30日現在	前 期 2005年3月31日現在
<b>資産の部</b>				<b>負債の部</b>			
流動資産	51,619	45,815	50,705	流動負債	10,777	11,613	11,753
現金及び預金	18,946	18,277	20,507	支払手形及び買掛金	4,148	4,149	4,805
受取手形及び売掛金	10,452	9,350	9,980	短期借入金	869	1,577	945
たな卸資産	17,694	13,699	15,998	その他	5,759	5,885	6,002
その他	5,098	4,927	4,724	固定負債	2,734	1,593	2,212
貸倒引当金	△571	△438	△504	負債合計	13,512	13,206	13,965
固定資産	25,478	25,555	24,411	<b>少数株主持分</b>			
有形固定資産	17,268	15,402	15,850	少数株主持分	12,828	9,171	11,827
建物及び構築物	6,861	7,446	7,055	<b>資本の部</b>			
工具器具備品	1,962	1,670	1,682	資本金	9,274	9,274	9,274
土地	6,649	5,400	6,184	資本剰余金	10,800	10,800	10,800
その他	1,796	884	927	利益剰余金	32,849	31,587	31,788
無形固定資産	1,405	1,344	1,538	土地再評価差額金	△1,498	△1,295	△1,582
投資その他の資産	6,804	8,808	7,022	その他有価証券評価差額金	551	221	363
投資有価証券	2,933	3,321	3,151	為替換算調整勘定	△541	△917	△643
その他	3,916	5,543	3,980	自己株式	△678	△676	△677
貸倒引当金	△45	△56	△109	資本合計	50,757	48,993	49,322
資産合計	77,098	71,370	75,116	負債、少数株主持分及び資本合計	77,098	71,370	75,116

### 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期 (2005年4月1日から 2005年9月30日まで)	前中間期 (2004年4月1日から 2004年9月30日まで)	前 期 (2004年4月1日から 2005年3月31日まで)
売上高	42,895	37,266	75,906
売上原価・販売費及び一般管理費	38,969	33,540	69,163
営業利益	3,925	3,725	6,742
営業外収益	413	595	819
営業外費用	158	85	225
経常利益	4,179	4,235	7,337
特別利益	97	29	347
特別損失	293	79	562
税金等調整前中間(当期)純利益	3,983	4,185	7,122
法人税、住民税及び事業税	1,685	1,888	2,693
法人税等調整額	35	△289	297
少数株主利益	998	1,089	1,734
中間(当期)純利益	1,264	1,496	2,398

### 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期 (2005年4月1日から 2005年9月30日まで)	前中間期 (2004年4月1日から 2004年9月30日まで)	前 期 (2004年4月1日から 2005年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	480	4,230	6,469
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,571	△972	△2,540
財務活動によるキャッシュ・フロー	△636	△164	1,141
現金及び現金同等物に係る換算差額	△26	17	182
現金及び現金同等物の増加又は減少額(△)	△1,754	3,110	5,253
現金及び現金同等物の期首残高	20,507	15,166	15,166
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	193	—	87
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	18,946	18,277	20,507

### 連結剰余金計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期 (2005年4月1日から 2005年9月30日まで)	前中間期 (2004年4月1日から 2004年9月30日まで)	前 期 (2004年4月1日から 2005年3月31日まで)
<b>資本剰余金の部</b>			
資本剰余金期首残高	10,800	10,800	10,800
資本剰余金増加高	0	—	0
自己株式処分差益	0	—	0
資本剰余金中間期末(期末)残高	10,800	10,800	10,800
<b>利益剰余金の部</b>			
利益剰余金期首残高	31,788	30,384	30,384
利益剰余金増加高	1,598	1,496	2,403
連結子会社増加に伴う増加高	334	—	5
中間(当期)純利益	1,264	1,496	2,398
利益剰余金減少高	537	294	999
配当金	376	251	502
役員賞与	77	43	43
土地再評価差額金取崩額	83	—	454
利益剰余金中間期末(期末)残高	32,849	31,587	31,788

### 連結の範囲

科目	当中間期	前中間期	前 期
連結子会社	国内	4社	5社
	海外	18社	15社
持分法適用関係会社	海外	2社	3社

## 中間単独財務諸表(要旨)

### 貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期 2005年9月30日現在	前中間期 2004年9月30日現在	前 期 2005年3月31日現在	科目	当中間期 2005年9月30日現在	前中間期 2004年9月30日現在	前 期 2005年3月31日現在
<b>資産の部</b>				<b>負債の部</b>			
<b>流動資産</b>	<b>19,448</b>	<b>18,496</b>	<b>18,523</b>	<b>流動負債</b>	<b>3,855</b>	<b>4,340</b>	<b>3,494</b>
現金及び預金	8,291	8,161	8,749	買掛金	1,966	1,658	1,608
受取手形及び売掛金	5,195	4,766	4,449	短期借入金	0	500	0
たな卸資産	3,275	2,979	2,791	その他	1,888	2,181	1,885
その他	2,710	2,608	2,551	<b>固定負債</b>	<b>393</b>	<b>292</b>	<b>504</b>
貸倒引当金	△23	△20	△18	<b>負債合計</b>	<b>4,248</b>	<b>4,632</b>	<b>3,999</b>
<b>固定資産</b>	<b>27,132</b>	<b>27,874</b>	<b>26,874</b>	<b>資本の部</b>			
<b>有形固定資産</b>	<b>8,927</b>	<b>9,588</b>	<b>9,002</b>	<b>資本金</b>	<b>9,274</b>	<b>9,274</b>	<b>9,274</b>
建物	3,863	4,327	3,934	資本剰余金	10,800	10,800	10,800
工具器具備品	672	718	675	利益剰余金	23,895	23,420	23,230
土地	3,957	4,136	3,971	利益準備金	847	847	847
その他	434	406	421	任意積立金	21,613	21,021	21,021
<b>無形固定資産</b>	<b>302</b>	<b>350</b>	<b>333</b>	中間(当期)未処分利益	1,434	1,551	1,360
<b>投資その他の資産</b>	<b>17,902</b>	<b>17,936</b>	<b>17,539</b>	土地再評価差額金	△1,498	△1,295	△1,582
投資有価証券	14,900	13,356	14,498	その他有価証券評価差額金	540	215	355
長期貸付金	930	1,002	937	<b>自己株式</b>	<b>△678</b>	<b>△676</b>	<b>△677</b>
その他	2,753	4,207	2,733	<b>資本合計</b>	<b>42,332</b>	<b>41,738</b>	<b>41,399</b>
貸倒引当金	△680	△630	△631	<b>負債及び資本合計</b>	<b>46,581</b>	<b>46,371</b>	<b>45,398</b>
<b>資産合計</b>	<b>46,581</b>	<b>46,371</b>	<b>45,398</b>				

### 損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期 (2005年4月1日から 2005年9月30日まで)	前中間期 (2004年4月1日から 2004年9月30日まで)	前 期 (2004年4月1日から 2005年3月31日まで)
<b>売上高</b>	<b>16,697</b>	<b>16,390</b>	<b>32,504</b>
売上原価・販売費及び一般管理費	15,849	15,470	30,920
<b>営業利益</b>	<b>847</b>	<b>919</b>	<b>1,584</b>
営業外収益	983	920	1,063
営業外費用	8	7	16
<b>経常利益</b>	<b>1,822</b>	<b>1,832</b>	<b>2,631</b>
特別利益	2	120	197
特別損失	363	173	538
<b>税引前中間(当期)純利益</b>	<b>1,461</b>	<b>1,780</b>	<b>2,290</b>
法人税、住民税及び事業税	359	607	346
法人税等調整額	△62	△109	147
<b>中間(当期)純利益</b>	<b>1,164</b>	<b>1,282</b>	<b>1,797</b>
前期繰越利益	353	268	268
中間配当額	—	—	251
土地再評価差額金取崩額	83	—	454
<b>中間(当期)未処分利益</b>	<b>1,434</b>	<b>1,551</b>	<b>1,360</b>

## マルチブランド

世界の音楽愛好家に愛され、  
信頼されている電子楽器の総合ブランド

# Roland

世界の音楽シーンをリードするローランド。プロ・ミュージシャンの愛機として、シンセサイザーや電子ドラム、レコーディング機器は、ステージやスタジオで活躍しています。またデジタルピアノや電子オルガンは、デジタルならではの多彩な機能を活用して、ご家庭や音楽教室で愛用されています。



音と映像のシステム・ソリューション  
により空間を演出するブランド

# ROSS

by Roland

イベントやコンサートPA、会議室や店舗等の音響機器をはじめ、公共施設、アミューズメント施設、商業施設などの「空間」を演出する業務用音響機器のブランド。EDIROLブランドで展開する映像機器とあわせた「音と映像のシステム・ソリューション」を提案いたします。



エフェクター世界No.1のシェアを誇る、ギター関連機器ブランド

# BOSS

エフェクター、デジタル・レコーダー、リズム・マシンなどのギター関連機器から、ギタリストの創造力を刺激する「音」をお届けしている『ボス』、世界中の有名ギター・プレイヤーや楽器ファンから、絶大な信頼と熱い支持を受けています。



伝統の技と先進技術が融合した、  
クラシック・オルガンのブランド

# RODGERS

最新のデジタル技術によって、豊かなパイプオルガン・サウンド、ハーモニー、大聖堂さながらの響きを再現した、本格クラシック・オルガンのブランド『ロジャース』。全国のホテルや世界各国の教会、音楽ホールなどで採用されています。



自由に創りだす喜びをお届けする、  
音と映像の編集機器ブランド

# EDIROL

by Roland

コンピュータ・ミュージック、ビデオ編集機器を中心に展開する『エディロール』。高品位なサウンドの音楽制作や、音と映像の編集を、多彩な製品ラインアップでサポートしています。



柔軟な発想で新市場を確立、  
コンピュータ周辺機器のブランド

# Roland

デジタル技術の力で「イメージをカタチに」するブランド『ローランド ディー・ジー』。業務用大型カラープリンターや三次元入出力装置などから、さまざまなソリューション提案を行っています。



音楽と映像を組み合わせたパフォーマンスを実現  
**Visual Software and Controller  
 motion dive .tokyo Performance Package  
 MD-P1-S**

パソコンでさまざまな映像クリップやエフェクトをリアルタイムにコントロールできる人気のVJソフト「motion dive .tokyo」と、USB接続の専用コンソールEDIROL MD-P1を組み合わせたのが「motion dive .tokyo Performance Package」。映像をフィジカル・コントローラーで直感的にコントロールすることができます。さらにV-LINK対応機器との接続により、音楽と映像を組み合わせたパフォーマンスも可能です。



新ブランドRSS(アールエスエス)製品第一弾  
**Digital Snake  
 S-4000シリーズ**



デジタル・スネーク「S-4000シリーズ」はローランド独自開発のイーサネット技術「REAC(リアック)」(Roland Ethernet Audio Communication)により、安全・確実な高音質伝送をローコストで実現します。コンサート/イベントなどの仮設用途はもちろん、常設の音響設備にも最適な「多チャンネル」オーディオ伝送システムとして導入を提案しています。

多機能ながら、簡単操作のコンパクト・サンプラー  
**Compact Digital Sampler  
 SP-404**

DJ用として、またトラック制作者用としても人気の高いサンプラー SPシリーズの最新モデルがSP-404です。優れた操作性や、強力なサウンド加工が可能な高品位エフェクトなど、SP-303の特長を受け継ぎながら、さらなる高音質化や長時間サンプリング、同時発音数の拡大を実現しました。



リズム練習のための電子型トレーニング・パッド  
**Rhythm Coach  
 RMP-5**

RMP-5は、さらに進化したコーチ機能搭載の最新リズム・コーチです。多彩な練習プログラムで効果的なリズム・トレーニングが行える好評のRMP-5にPCM音源を内蔵した最新モデルです。本体には高性能メトロノームが内蔵され、大きく見やすいLCD画面には振り子の動きを滑らかに表示。その正確なテンポに合わせてパッドを叩くことにより、本格的なリズム練習が実現します。



コンパクトな最新スタイリッシュ・ピアノ  
**Digital Piano  
 DP-970**

シンプルでコンパクトなデザインに加えて、ピアノとしての確かな基本性能をそなえたローランドのスタイリッシュ・シリーズ。DP-970は、シリーズ・コンセプトそのままに、サウンド・機能・デザインをさらにブラッシュアップした、最新のスタイリッシュ・ピアノです。華やかなライトチェリー調と、落ち着いたあるミディアムチェリー調の2種類のボディカラーでどんなお部屋にもマッチします。また、フルコンサート・グランドピアノの美しい響きを追求した高品位なピアノ・サウンドを内蔵。さらに自分の演奏を録音できる2トラック・レコーダーや、同じ音域を二人で弾ける「ツインピアノ・モード」など、ピアノの上達をサポートするレッスン機能も充実しています。



NEW  
 PRODUCT

シンプル操作でCD制作を可能にするレコーダー  
**CF/CD Recorder  
 CD-2**

CD-2は、レコーディングからCD制作までが1台でできるオーディオ・レコーダーです。簡単なボタン操作で演奏や歌を録音し、CDとして保存することができます。便利な再生機能をはじめとした音楽練習に役立つ機能も多彩に備え、自宅練習から本番のステージまで、音楽活動をサポートします。また、録音メディアとしてコンパクトフラッシュも搭載しましたので、長時間録音やCDとの併用による多重録音も可能。様々な場面での活用を提案します。



(注) 記載されている社名、製品名などの固有名詞は、各社の登録商標または商標です。

# トピックス

## 企業広告展開

ローランドは、ブランド・イメージの浸透を推し進めるにあたり、かねてより企業広告を積極的に展開してまいりました。本年度も引き続き、“電子楽器は楽しさいっぱい、ローランド”をテーマに、全国紙によるPR活動を行っています。またテレビにつきましては、RMS音楽教室のCM放映（番組提供）を追加し、教室ブランドの訴求に注力してまいりました。今後もより多くの方々に、ローランドというブランド認知を高めていただく活動を推進してまいります。

## — TVCM —



【ローランドRMS音楽教室編】

## — 新聞広告 —

## 本社移転

2005年7月1日、12市町村の合併により、人口約80万人の新「浜松市」が誕生しました。ローランドは同日を以って、主力工場のある浜松市細江町に本社所在地を移転。“技術と文化の世界都市・浜松市”から、あらためて“創造”の喜びを世界に広げてまいります。



## ローランド・プラネット店展開

Planetとは、ローランドの製品やソフト等最新の情報をダイレクトに顧客へ発信する新しいインショップ展開です。プラネットではすべての製品が理想的にセットアップされた環境で試弾・試奏・試打が可能、さらに専任のスタッフがお客様にベストな対応をいたします。プラネットは2004年秋から提携得意先の店内にて展開を開始し、多くの顧客からの支持を得るとともに、大きな成果を上げております。すでに全国8ヶ所に出店（2005年10月現在）、今後も積極的に拡大する予定です。



## 新ブランドのスタートと米国事業再編

ミキサー、パワーアンプ、スピーカー等の業務用音響機器のブランドとして新たに「RSS」を発表しました。「デジタル化」と「音と映像のシステム・ソリューション」により、「空間演出」にフォーカスした事業展開を図ってまいります。



北米においては、多岐にわたる商品をジャンル分けし、それぞれのマーケティングおよび販売にフォーカスできるよう事業再編を実施しました。

2005年9月には、新ブランド「RSS」を展開する新会社「Roland Systems Group U.S.」を設立。「EDIROL」ブランドの映像関連機器とあわせた提案を強化いたします。さらに米国の販売会社「Roland Corporation U.S.」では、新たにコンピュータ・ミュージック関連機器を加え楽器販売との相乗効果を図る一方、商品群別の販売体制としました。特に「BOSS」ブランドで展開するギター関連機器については、社内カンパニー「BOSS U.S.」を設置し、「BOSS」ブランドのアイデンティティを高めていきます。

## RMS音楽教室移転リニューアルオープン

RMS音楽教室は、ローランドが運営する新しい時代の音楽教室です。より多くの人に電子楽器を有効に取り入れたレッスンの普及を目指し、教室事業の拡大を進めています。8月には福岡センター、9月に東海センター（名古屋）をアクセスのよい立地に移転し、レッスンルームの増設もおこないました。さらに多くの人に親しまれる教室活動を展開してまいります。



(注) 記載されている社名、製品名などの固有名詞は、各社の登録商標または商標です。

## 会社の概況

### ■ 会社の概要 (2005年9月30日現在)

商号	ローランド株式会社 (Roland Corporation)
設立	1972年4月18日
資本金	9,274百万円
主な事業内容	電子楽器、電子機器およびそのソフトウェアの製造販売並びに輸出入
従業員数	724名

### ■ 役員状況 (2005年9月30日現在)

取締役会長 (代表取締役)	檀 克 義
取締役社長 (代表取締役)	田 中 英 一
専務取締役	西 澤 一 朗
取締役	三 木 純 一
取締役	近 藤 公 孝
取締役	柳 瀬 和 也
取締役	小 川 隆
取締役	富 岡 昌 弘
常勤監査役	庄 司 東 生
常勤監査役	河 合 保
監査役	川 島 実
監査役	前 川 三喜男
特別顧問	梯 郁 太 郎
顧問	菊 本 忠 男
顧問	新 田 寛
会計監査人	監査法人トーマツ

(注) 監査役 川島 実氏および前川 三喜男氏は、株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律第18条第1項に定められる社外監査役です。

### ■ 事業所 (2005年9月30日現在)

本 社 工 場	静岡県浜松市細江町中川2036-1
工 場	都田工場、伊左地工場、松本工場
研 究 所	浜松研究所
試 験 セ ン タ ー	都田試験センター
流 通 セ ン タ ー	浜松流通センター
国内オフィス	札幌、東京、名古屋、大阪、福岡
海外オフィス	ロッテルダム
音 楽 教 室	ローランドRMS音楽教室直営センタースクール 北海道センター、首都圏センター渋谷、東海センター佐鳴台、東海センター、関西センター京都、関西センター梅田、広島センター、福岡センター

### ■ グループ各社 (国内) (2005年9月30日現在)

製造	ボス株式会社
製造販売	ローランド イーディー株式会社
製造販売	ローランド エンジニアリング株式会社
製造販売	ローランド ディー・ジー 株式会社

### ■ グループ各社 (海外) (2005年9月30日現在)

販売	Roland Corporation U.S. Edirol Corporation North America Roland Systems Group U.S. Roland Canada Music Ltd. Roland Brasil Importação, Exportação, Comércio, Representação e Serviços Ltda. Roland Corporation Australia Pty., Ltd. Allans Music Group Unit Trust Roland (U.K.) Ltd. Edirol (Europe) Ltd. Roland Elektronische Musikinstrumente HmbH. Roland Central Europe n.v. Electronic Musical Instruments Roland Scandinavia A/S Roland Iberia, S.L. Roland (Switzerland) AG Roland Italy S.p.A. Roland East Europe Ltd. Roland Taiwan Enterprise Co., Ltd. Roland Asia Pacific Sdn. Bhd.
----	---

製造	Rodgers Instruments LLC Roland Audio Development Corp. Roland Taiwan Electronic Music Corp. Roland Electronics (Suzhou) Co.,Ltd. Roland E.Music (Suzhou) Co., Ltd. Roland Europe S.p.A.
----	--

物流	Roland (Shanghai) Logistics Co., Ltd.
----	---------------------------------------

## 株式の状況

### ■ 株式の状況 (2005年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数	50,000,000株
発行済株式総数	25,572,404株
自己株式数	461,013株
株主数	5,349名

### ■ 大株主 (2005年9月30日現在)

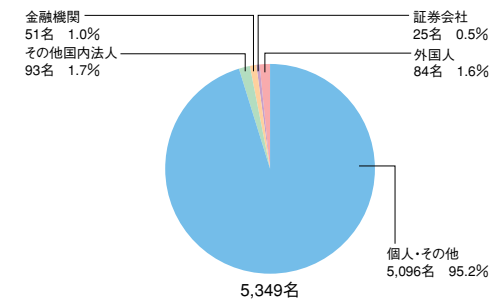
株主名	持株数 (千株)	議決権比率 (%)
財団法人ローランド芸術文化振興財団	2,335	9.3
ノーザントラスト カンパニー (エイブイエフシー) サブ アカウント アメリカン クライアント (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	1,535	6.1
梯 郁太郎	1,507	6.0
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,395	5.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,307	5.2
パイオニア興産株式会社	800	3.2
ローランド社員持株会	703	2.8
ノーザン トラスト カンパニー エイブイエフシー リ ユーエス タックス エグゼクティブ ベンション ファンズ (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	648	2.6
モルガンスタンレーアランドカンパニーインク	607	2.4
株式会社りそな銀行	561	2.2

### 単元未満株式買増制度のご案内

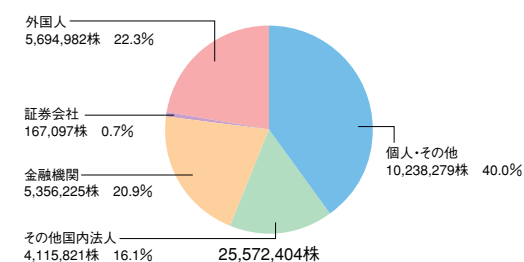
当社は単元未満株式の買増制度を採用しております。この制度は、株主様が1単元（100株）に満たない株式を所有されている場合、1単元に不足する株式を売り渡すよう発行会社に請求し、1単元に買増することができる制度です。例えば、当社株式150株を所有されている場合、当社に50株の買増しをご請求いただき、所有株式を200株にすることができます。具体的なお請求手続きや代金の支払方法などにつきましては、当社名義書換代理人（株式会社だいこう証券ビジネス）にお問い合わせください。

なお、単元未満株式の買取請求につきましても、引き続きお手続きいただけますので、買取をご希望される場合は、当社名義書換代理人までお問い合わせください。

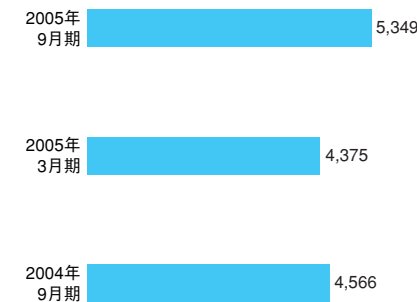
### ■ 所有者別株主分布状況 (2005年9月30日現在)



### ■ 所有者別株式分布状況 (2005年9月30日現在)



### ■ 株主数の推移





## 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
1単元の株式数	100株
基準日	定時株主総会 3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
配当金受領 株主確定日	利益配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
上場証券取引所 名義書換代理人	東京・大阪証券取引所市場第一部 大阪市中央区北浜二丁目4番6号 株式会社だいこう証券ビジネス
同事務取扱場所	〒541-8583 大阪市中央区北浜二丁目4番6号 株式会社だいこう証券ビジネス 本社証券代行部
(各種お問い合わせ)	電話 0120-255-100 ※株式関係のお手続用紙のご請求は次の電話番号およびインターネットで24時間承っております。 電話 0120-351-465 <a href="http://www.daiko-sb.co.jp">http://www.daiko-sb.co.jp</a>
同 取 次 所	株式会社だいこう証券ビジネス 各支社

### ■配当金口座振込のおすすめ

配当金のお受取りは、口座振込が便利です。口座振込の場合は、支払開始日に自動的にご指定口座へ入金させていただきますので、受取り忘れといったこともなくなり安心です。口座振込による配当金のお受取りをご希望の場合は、当社名義書換代理人（株式会社だいこう証券ビジネス）に「配当金振込指定書」をご請求ください。



<http://www.roland.co.jp/>